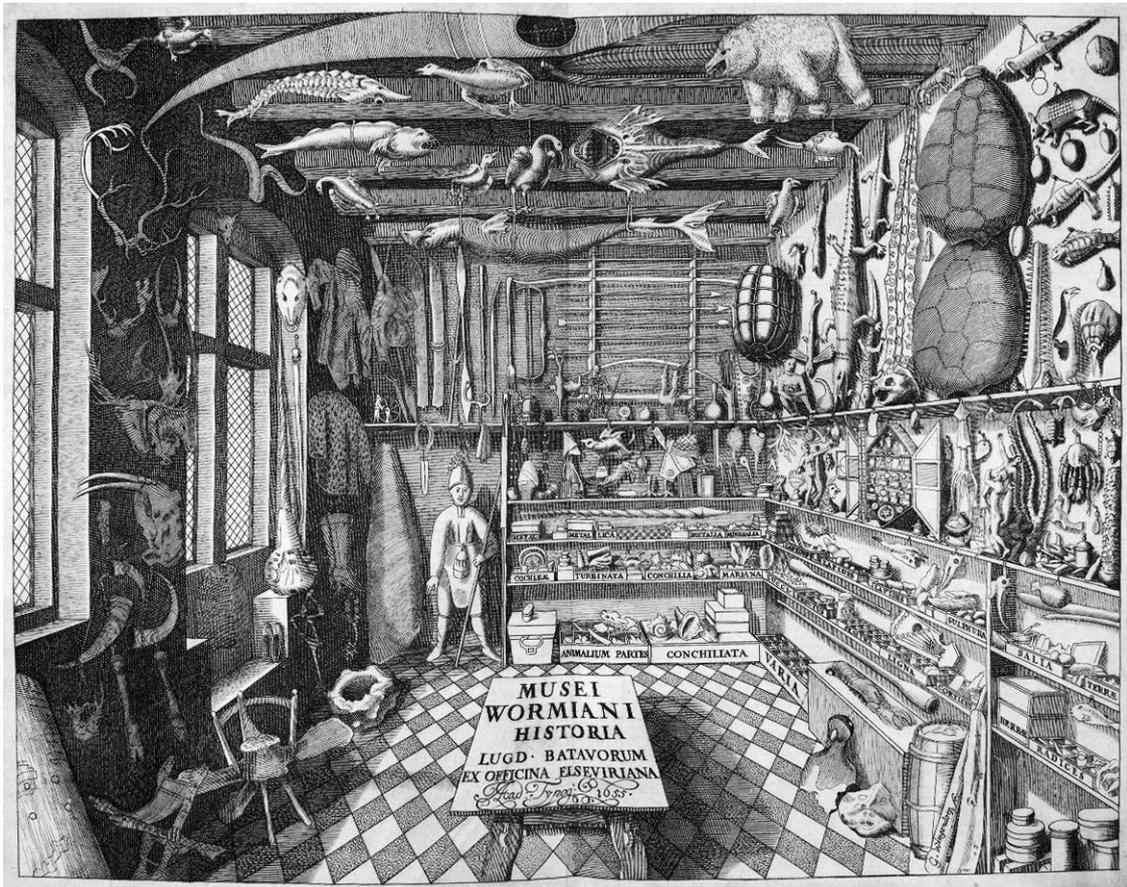


東京農業大学オホーツクキャンパス
学術情報課程年報2008

博物館と学芸員

を目指す



コペンハーゲンの医師ウォルムのコレクションのカタログ (1655年)

Wikimedia Commons, *File:Musei Wormiani Historia.jpg* より

http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Musei_Wormiani_Historia.jpg?uselang=ja

東京農業大学学術情報課程
(オホーツクキャンパス)

2006年に学芸員資格取得を目指す学術情報課程がオホーツクキャンパスに設置されてから3年目となった。今年、夏休みから3年生が博物館での職場体験の機会となる館務実習（館園実習）に出掛けている。講義の科目も3年前期までに終了しているので、学術情報課程の内容は今年で出そろったことになる。課程の完成年度は来年であるが、学芸員資格の講義と実習の内容をまとめた年報を発行することにした。

本学の場合、学芸員資格の取得に必要な授業は、博物館法で定められた博物館に関する科目8科目12単位のみとしている。大学によっては、歴史や美術分野の科目を選択必修とし、学芸員課程の必要科目が専門分野と合わせて20単位程度になっている場合が見られるが、本学では専門分野の修得は学科での教育が担保している。よって、学芸員を目指す学生は、専門分野の研鑽に努めることが求められる。

学芸員に共通する知識と技能の修得、これがオホーツクキャンパスでの学芸員養成の教育方針である。本学部の学生は、生物学系あるいは生物産業を基盤とした学芸員としての活躍が期待される。学術情報課程では、専門分野だけでは不足している内容、しかも4学科ともに必要性の高い項目を取り上げることにしている。授業では、文章表現やデザイン、印刷と出版の基礎知識、写真撮影、使用者としてのコンピュータ能力など教育普及分野での技能、博物館の意義や歴史、文化財保護、生涯学習といった教養的な内容が多くなり、馴染みのない内容にとまどう学生もいるかもしれない。さらに、広報媒体や実施計画の模擬作成、施設運営の要点整理、美術品輸送の専門家による梱包実習など実践的演習を実施した。

博物館情報学研究室には、学芸員の実務が体験できるよう、博物館で使用されるコンピュータやソフトウェア、大型プリンタやフィルムスキャナなど周辺機器を一通りそろえている。書籍も概説的なものから、小学校から高校までの教科書や子ども向けの図鑑、建築資料や英語の基本文献など、ある程度充実してきた。関連学会の資料やウェブで公開される報告書なども蓄積し、地方における博物館の情報拠点としての形ができつつある。勉学、実務の両面で、博物館を支援していくことができれば幸いである。

博物館情報学研究室・嘱託准教授 宇仁義和（うに・よしかず）

平成20年度東京農業大学学術情報課程（オホーツクキャンパス）経過報告

1. 開講科目

科目名	単位数	開講年次	担当教員	教科書
教育学概論	1	1年後期	井上正道	オリジナル小冊子（集中講義）
博物館概論	2	1年後期	宇仁義和	大堀哲編 2005『博物館概論』学文社
博物館資料論	2	2年前期	宇仁義和	国立科学博物館編 2003『標本学』
生涯学習概論	1	2年後期	宇仁義和	オリジナルプリント
博物館情報論	1	2年後期	宇仁義和	波多江潤子 2007『新詳細DTP基礎改訂版』
博物館経営論	1	3年前期	宇仁義和	上山信一・稲葉郁子 2003『ミュージアムが都市を再生する』
視聴覚教育メディア論	1	3年前期	宇仁義和	オリジナルプリント
博物館実習	3	3・4年通年	宇仁義和	オリジナルプリント（集中講義）

2. 館園見学

多種多様な分野をカバーするように努め、釧路や帯広支庁管内での見学は土曜日をあてた。見学がかなわなかった分野は植物園であり、次年度の課題としたい。

学年	見学施設	分野	設置者・博物館法による区分
1年	網走市立郷土博物館・モヨロ貝塚館	郷土・総合	公立・登録
1年	北海道立北方民族博物館	民族	公立・登録
2年	足寄動物化石博物館	自然史	公立・類似
2年	環境省阿寒湖畔エコミュージアムセンター	自然系施設	国立・類似
2年	釧路市こども遊学館	科学館・子ども博物館	公立・相当
3年	スガノ農機土の館（北海道遺産選定施設）	産業	私立・類似
3年	北海道開拓記念館	総合	公立・類似
3年	北海道開拓の村	歴史・野外	公立・相当
3年	小樽水族館	水族館	私立・相当



阿寒湖畔エコミュージアムセンター



足寄動物化石博物館（化石レプリカ作成）

3. 博物館実習

1) 札幌館園見学（6月9－11日）

上述の札幌周辺の博物館を見学した。実学体験週間を利用しての見学であったため、見学した北海道開拓記念では体験講座資料の整理や素材作成、古文書整理などの学芸業務の補助、北海道開拓の村では和船など大型資料の清掃や移設建築物周辺の草取りなどの奉仕作業を行った。

2) 梱包実習（7月5日）

日本通運美術品事業部（東京）から専門家2名（徳田英昌主任指導員、松木弘技術顧問）を講師として招致して実施した。会場は学生会館1階のホールを利用した。これは、資料落下の危険性を取り除くため、美術品の梱包は床面で実施することを基本とすることから、広い床面積が確保できる場所として選択した。教材は、陶器は日通の備品を使用した。骨格標本とはく製は斜里町立知床博物館、額装絵画は網走市立美術館から借用した。また、近隣の博物館には実習実施を周知して学芸員に参加を呼びかけたところ、知床博物館から1名、美幌博物館から2名、北網圏北見文化センターから1名の計4名の参加があった。

内容は、(1) ビデオによる基本動作の確認、(2) 実演と実習として、緩衝材で全体をくるむ伝統的な技法による陶器の梱包、強固な場所に枕を当て他は浮かす技法による骨格標本とはく製の梱包、養生テープを用いた額装絵画の梱包、の3つを3人一組で全員参加で行い、(3) 見学実習として、資料にあわせた専用箱を一枚段ボールからの切り取り組み立てのデモンストレーションから学んだ。

学生たちの取り組みは熱心であったが、一部にだらけた態度を見せるものや、養生シートの上を土足で歩いて講師から注意を受ける場面が見られ残念であった。

3) カメラの使い方

デジタル一眼レフの使い方を実機10台を用いて学んだ。同様の実習は、2年前期の博物館資料論の授業1コマを使って実施しているが、消化不良に終わったので改めて実施した。

受講生のうち、一眼レフを所有しているのは修士課程1年の1人のみで、ほかは使ったことがないという。現在の学生は、シャッター幕も絞りも見ることがないものがほとんどであった。これはフィルムを装填しないデジタルカメラでは内部を見ることがないためであろう。そこで、マニュアルのフィルム一眼レフを用いて絞りとシャッターを実見させるなど基礎の基礎からの実習となった。



古文書整理作業（北海道開拓記念館）



和船と廊下（船倉）清掃（北海道開拓の村）

○梱包実習



薄葉紙から紙ひもを作る



実習は広い床面が確保できる学生会館ホールで実施した



骨格標本は丈夫な場所をピンポイントで支える



陶器は全体を綿布団で球状に包む



1枚の段ボール板からオーダーメイドの箱を作る



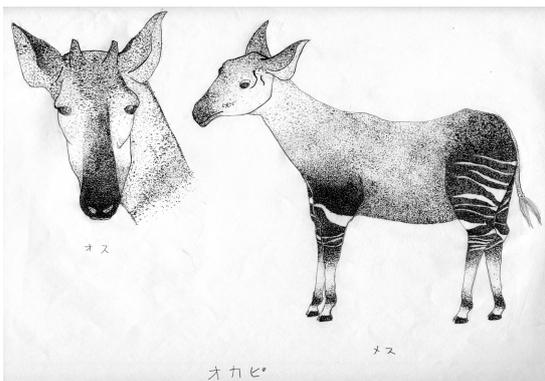
薄葉紙と真綿で綿布団を作成中

4. 館務実習（館園実習）

館務実習の実施は、博物館実習を除く科目の履修が完了する3年次の夏休みから開始した。本年度の実習生は17名で、実施場所は北海道5館7名、茨城県1館1名、東京都1館2名、神奈川県2館2名、長野県1館1名、鹿児島県1館4名となった。

お忙しいなか、本学学生を受け入れ、実習を行われた館園にお礼申し上げます。

学籍番号	氏名	期間	館園名
○生物生産学科 3年5名			
18060000	男子学生	2009.3.20-3.29	奄美文化財団原野農芸博物館
18060000	男子学生	2008.9.1-9.12	横浜市立よこはま動物園「ズーラシア」
18060000	男子学生	2009.3.20-3.29	奄美文化財団原野農芸博物館
18060000	男子学生	2009.3.20-3.29	奄美文化財団原野農芸博物館
18060000	女子学生	2008.9.4-9.18	水戸市植物公園
○アクアバイオ学科 3年9名			
21060000	女子学生	2008.8.11-8.20	千歳サケのふるさと館
21060000	女子学生	2008.9.14-9.23	サンピアザ水族館
21060000	男子学生	2009.1.27-2.6	東京農業大学「食と農」の博物館
21060000	男子学生	2009.2.10-2.20	蓼科アミューズメント水族館
21060000	男子学生	2008.10.24-11.3	標津サーモン科学館
21060000	男子学生	2008.9.18-9.28	斜里町立知床博物館
21060000	女子学生	2008.10.30-11.9	標津サーモン科学館
21060000	男子学生	2008.8.15-8.26	美幌博物館
21060000	男子学生	2008.8.21-8.29	奄美文化財団原野農芸博物館
○食品科学科 3年1名			
19060000	女子学生	2008.8.7-8.21	箱根町立箱根湿生花園
○産業経営学科 3年2名			
20060000	男子学生	2008.9.18-9.28	斜里町立知床博物館
20060000	男子学生	2009.2.12-2.22	東京農業大学「食と農」の博物館



学芸員の仕事は、園内管理、開花調査、ガイドワーク、特別展等の準備、事務仕事といった多岐にわたるものでした。また、1日の仕事内容について、従業員の方に指導・アドバイスをしなければなりません。ガイドワークでは、専門的な知識がとられ、また、お客様の質問に答えなければなりません。さらに、小学生を対象にした食虫植物講座では、わかりやすく、興味を持ってもらえるように上手に工夫して解説をしなければなりません。学芸員は、ただ専門的知識を持っているだけでなく、それを上手に伝える事もまた重要だと感じました。本当に大変な仕事なのだと改めて実感しました。

10月31日(金)

指導担当者確認欄 (サイン/印) 市打 政子

時間

実習内容 (課題名および概要)

「館務実習日誌」から

話はそれでしたが、私は今回の実習で水族館職員としての仕事はあらずん(ごく一部ですが)、「社会」という一つのなか組の中での人間関係の築き方、第三者(来館者など)に対する対応のしかた、そして、第三者に対して何かを伝え、うつたえらることの難しさとその魅力を学ぶことができたと思います。

何よりも、「生物は何かを食べ、整った環境でなければ生きていくことはできない。その良い環境を作り、維持し、必要な分だけ食べさせることは根本的なことであり、またそれに決まった答えはない。」ということをもっと強く感じました。

良い経験をしたと感じたのは、奄美の自然に触れられた事もあるが、一番良かったのは人との交流であった。博物館関係者、その他の実習生、自元島民の人たちといった色々な人との会話で、新しい考え方、知識等を身に付けられたことが良い経験になった。自分の中では実習の作業で身に付けた事よりも断然ためになったと感じた。

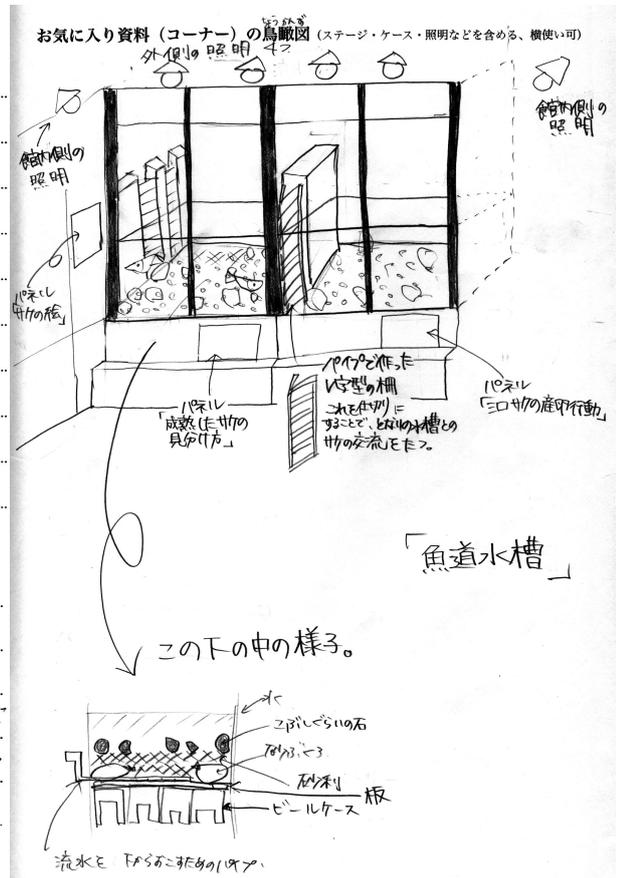
動物資料の扱いや、民俗・史跡資料の扱いから色々なことを学ぶ。色々な体験ができ、消化するのが大変な程なのですが、植物資料の扱いは何年、何十年と先のことを考えて資料処理をするのではなく、何百年先のことを考え、紙やインク、など昔のものを使って今でも正確にできるものを使う。など、先を見据えたサンプル処理、ラベル作りをするのに感動しました。また、顔料ボールペンで選ぶにしても、色々な顔料ボールペンを紙に書き、長時間(年)日光に晒し、光あせが遅いものを使うというこだわりがすごいと思っると同時に、昔の人の積み重ねによる知識もどんどん積み重ねる。色々な分野が深く、広くなっていく感じが、昔の人の想いを繋ぐものが資料なのだから、大袋装かもしないけれど、そう感じています。

実測というものを初めて行ったのだが、これは非常に集中が必要であると思われた。ものをよく観察し、それを図に描くという端から見れば単純明快な作業だが、複雑な形状をした資料を紙の上で立体に表すというのは大変難しかった。遺物、写真撮影でとらえたが、最適な光の当て方をするためには注意深い観察が必要であった。三次元のものを二次元に写す行為は、初めて行った作業の中で最も観察が必要であると考えられた。

- 8:45 ・朝の業務確認
・館内の展示照明のスイッチを入れる
- 9:30 ・魚道切り替え作業1
サカが産卵を行える水流のある砂利床を魚道内に作る。ビーターと板で土台をつくり、砂袋で固定し、隙間を埋めた。その上に砂利と石を入れた。また、砂利の下には水流が起るよう穴をあけた10Pを通した。
- 12:30 ・小魚を水路から救出する。
魚道切り替えのため閉鎖した水路にいるヤメなどを網で救出。
- 13:00 ・魚道切り替え作業2
魚道展示面のガラスを磨き、水を通して溜めた。サカを糸網でつかまえ、魚道内に、木とビスを組に入れて、作業で使った道具の片付け。
・展示物の課題 (案を練る)
・館内の見回り(展示照明のスイッチを切る)
・濾過循環装置を見学
濾過循環装置、冷却機、地下水の汲上げなど、水族館の設備の見学
・サカの産卵行動の見学

印象/感想

魚道に砂利も石も入れた。ずと腰を曲げて作業が多かった。作業を行ったことで、水族館で見えている裏側ではどのような仕事があるか、苦労があるか知ることが出来た。小魚救出中に足を滑らせてしまったので、今後とも注意をして作業を行う。魚道にサカが産卵する場所を作った。今日の写真を撮ったので、明日とかならになっていくのを見たいと思う。



5. 年間カレンダー

4月9日	新入生対象オリエンテーション（大講義室）
4月14日	前期開講科目授業開始
4月23日	第1回課程委員会（第二会議室）
5月24日	足寄動物化石博物館見学：展示室解説および化石レプリカ作成（2年生）
6月3日	受講希望者向け説明会（2-204教室）
6月9-11日	札幌館園見学旅行（3年生）
6月10日	受講希望者小論文提出締切
6月17日	受講許可者掲示
6月24日	受講許可者への納付書配布（2-204教室）
6月27日	受講料振込期限
6月20-21日	全国大学博物館学講座協議会全国大会：愛知大学（愛知県豊橋市）に参加
7月5日	梱包実習（学生会館ホール）
8月5日	前期開講科目授業（試験）終了
9月30日	後期開講科目授業開始
10月15日	北海道立北方民族博物館見学（1年生）
11月5日	網走市立郷土博物館・モヨロ貝塚館見学（1年生）
11月8日	阿寒湖畔エコミュージアムセンターおよび釧路市こども遊学館見学（2年生）
1月21日	後期開講科目授業（試験）終了
2月25日	第2回課程委員会（第二会議室）

東京農業大学オホーツクキャンパス
学術情報課程・博物館情報学研究室
平成21年（2009）3月
099-2493 網走市八坂196
Tel:0152-48-3857 Fax:0152-48-2766